

---

# 平成25年(2013年)3月期 決算説明会

2013年5月24日

JASDAQ:3423

 株式会社 **エスイー**

---

# 目次

- I. 平成25年3月期業績  
および平成26年3月期業績予想
- II. 平成25年3月期  
エスイーグループ各社 事業報告
- III. SECグループの今後の戦略



・平成25年3月期 業績

および 平成26年3月期 業績予想



# 損益計算書(連結)

(単位:百万円)

	平成24年3月期 実績	平成25年3月期 実績	前年同期比	
売上高	15,405	17,321	1,916	12.4%
営業利益	371	1,066	694	186.8%
経常利益	393	1,056	662	168.3%
当期純利益	255	612	357	139.6%
一株当たり純利益	33円33銭	64円55銭	31円22銭	

## 売上高

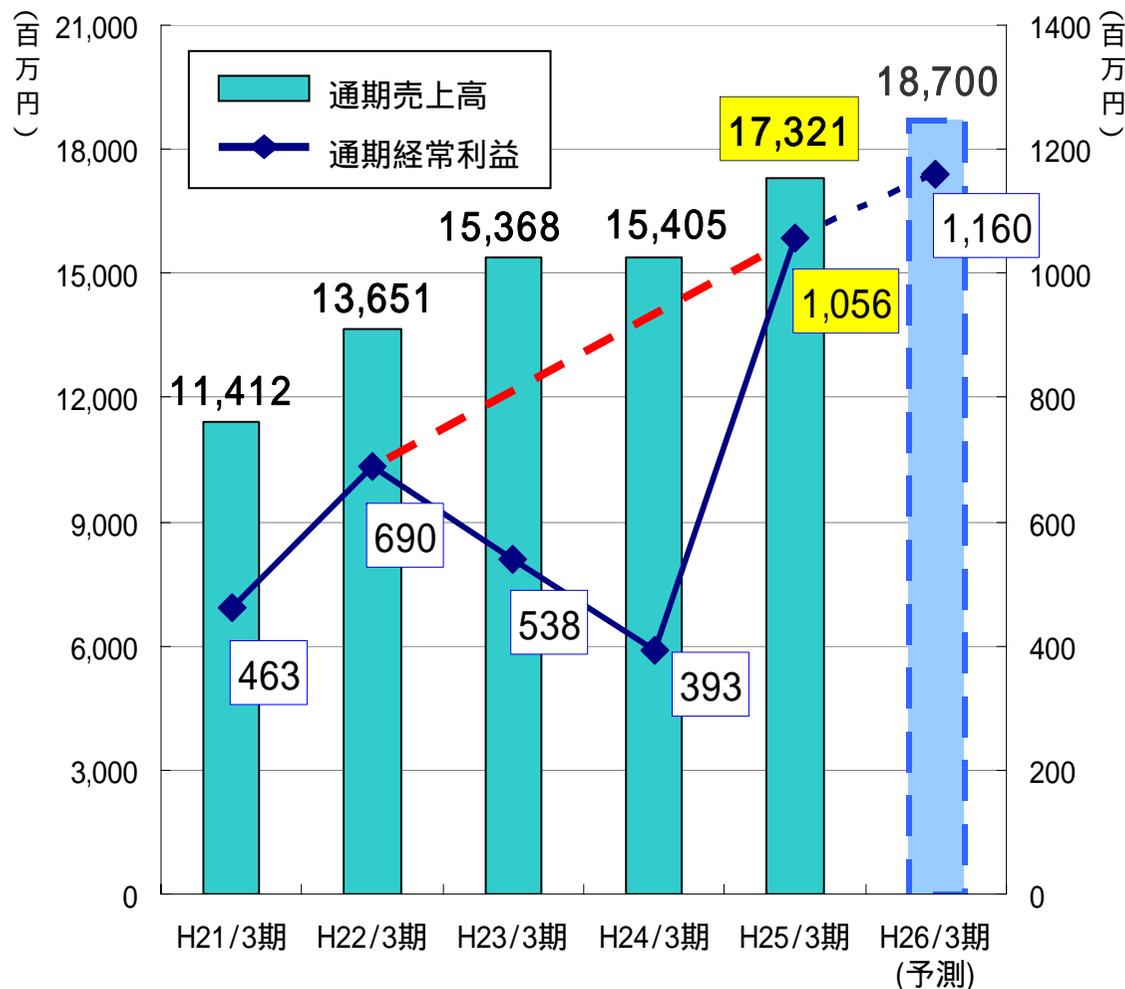
- 成長市場としての「補修・補強市場」への積極的な事業展開。
- 海外(ベトナム)建設市場での事業展開(ハロン~ハイフォン道路Bach Dang橋整備事業化(PPP-BOT))。
- PPP(パブリック・プライベート・パートナーシップ = 公民連携)への積極的な取組。
- 東日本大震災からの復興に呼応するグループの事業展開。
- 株式会社仲田建設(新商号:エスイーリペア株式会社)をM&Aで子会社化し、エスイーの既存部門と統合した新しい陣営で補修・補強工事業を中心に新規分野の事業拡大。

## 利益

- 株式会社エスイーの「建設用資機材の製造・販売事業」において工場製品の販売が順調に推移。
- 「建設用資機材の製造・販売事業」における製造部門の生産効率向上やコスト圧縮にも注力。
- エスイーA&K株式会社の「建築用資材の製造・販売事業」における震災復旧・復興需要の取り込みや首都圏内の民間建築市場での受注が順調に推移。

# 売上・経常利益の推移

(連結) 売上高・経常利益の推移(平成21年3月期～平成26年3月期予想)



## 平成24年3月期

- ・予算削減や激しい価格競争
- ・震災による公共事業費5%執行保留

## 当連結会計年度(平成25年3月期)

- ・上記保留分について事業執行の回復
- ・工場製品の販売が順調に推移
- ・震災復旧・復興需要の取り込み
- ・補修・補強事業者の買収による新規分野への市場拡大
- ・**前期比で増収増益を達成、特に利益が大きく回復**

## 平成26年3月期の通期見通し

- ・新政権による経済対策や金融政策等を背景とした景気回復への期待
- ・国土強靱化基本法案など、復興・防災対策等に今後10年で200兆円規模の投資検討
- ・建設・建築業界では、継続的な公共事業補正予算執行への期待

# セグメント別売上高

(単位:百万円)

区 分		平成24年3月期 実績		平成25年3月期 実績		前年同期比	
		売上高	構成比	売上高	構成比		
建設用資機材の 製造・販売	環境防災分野	8,067		<b>8,095</b>		28	0.4%
	橋梁構造分野	1,507		<b>1,858</b>		351	23.3%
	その他	117		<b>206</b>		89	76.1%
小計		9,692	62.9%	<b>10,160</b>	<b>58.7%</b>	468	4.8%
建築用資材の製造・販売		4,336	28.1%	<b>4,978</b>	<b>28.7%</b>	642	14.8%
建設コンサルタント		931	6.0%	<b>925</b>	<b>5.3%</b>	6	0.7%
補修・補強工事		372	2.4%	<b>1,252</b>	<b>7.2%</b>	879	236.2%
その他		72	0.5%	<b>4</b>	<b>0.03%</b>	67	93.9%
合 計		15,405	100.0%	<b>17,321</b>	<b>100.0%</b>	1,916	12.4%

- 売上高は百万円未満を端数処理(切捨て)しておりますので、内訳数値と合計値が一致しない場合があります。
- 第1四半期連結会計期間より、新しい報告セグメントに変更しております。

# 貸借対照表(連結)

(単位:百万円)

	平成24年3月期末	平成25年3月期末	前期末比較	
流動資産	12,908	<b>14,227</b>	1,319	10.2%
固定資産	5,283	<b>5,522</b>	238	4.5%
資産合計	18,192	<b>19,750</b>	1,557	8.6%
流動負債	7,414	<b>8,226</b>	811	10.9%
固定負債	4,505	<b>4,503</b>	2	0.05%
負債合計	11,920	<b>12,729</b>	809	6.8%
純資産合計	6,272	<b>7,021</b>	748	11.9%
負債・純資産合計	18,192	<b>19,750</b>	1,557	8.6%

(平成24年3月期末)

(平成25年3月期末)

自己資本比率

34.5%

**35.5%**

一株当たり純資産

816円43銭

**469円10銭**

ご参考:期末発行済株式数  
(自己株式は除く)

7,676,731株

**14,954,082株**

# CF計算書(連結)

(単位:百万円)

	平成24年3月期実績	平成25年3月期実績	前年同期比	
営業活動によるキャッシュ・フロー	301	<b>965</b>	663	220.1%
投資活動によるキャッシュ・フロー	120	<b>188</b>	68	
財務活動によるキャッシュ・フロー	250	<b>41</b>	292	
現金及び現金同等物に係る換算差額	6	<b>0</b>	6	
現金及び現金同等物 増減額( は減少)	425	<b>735</b>	310	73.0%
現金及び現金同等物 期首残高	3,206	<b>3,632</b>	425	13.3%
現金及び現金同等物 期末残高	3,632	<b>4,368</b>	735	20.3%

- 【営業活動によるCF】増加要因:税金等調整前当期純利益10億48百万円、のれん償却を含む減価償却費2億70百万円、仕入れ債務の増加額1億85百万円等  
減少要因:売上債権の増加額4億36百万円、未払金の減少額1億18百万円等
- 【投資活動によるCF】減少要因:有形固定資産取得による支出1億6百万円、無形固定資産の取得による支出18百万円、投資有価証券の取得による支出45百万円等
- 【財務活動によるCF】増加要因:長期借入による収入12億円、社債の発行による収入3億89百万円等  
減少要因:長期借入金の返済による支出13億51百万円、社債の償還による支出2億54百万円、親会社による配当金の支払額1億53百万円等

# 平成26年3月期 業績予想 (連結)

(単位:百万円)

	平成25年3月期 通期 実績	平成26年3月期 通期 予測	前年同期比	
売上高	17,321	18,700	1,378	8.0%
営業利益	1,066	1,129	63	6.0%
経常利益	1,056	1,160	103	9.8%
当期純利益	612	670	57	9.3%

平成26年3月期 期末配当金 **1株当たり 20円** (予定)

< 一株当たり当期純利益・配当金及び配当性向の推移 (連結) >

	平成21.3期	平成22.3期	平成23.3期	平成24.3期	平成25.3期	平成26.3期 (予測)
一株当たり 当期純利益(円)	31.77	51.68	41.49	33.33	64.55	44.80
一株当たり 配当金(円)	20	20	20	20	15	20
配当性向(%)	63.0%	38.7%	48.2%	60.0%	23.2%	44.6%

平成25年3月期の配当金額は当期の連結業績動向が前期に比べ順調に推移したこと、および新株式発行に伴う発行済株式総数の増加分を踏まえ、増資実施前の50%増に当たる1株当たり15円に修正させていただきました。



・ 平成25年3月期

エスイーグループ各社 事業報告



# エスイーグループ各社 売上構成



# 株式会社エスイー

(建設用資機材の製造・販売事業)

## 株式会社エスイー

売上高 103億24百万円 経常利益 6億75百万円

- 工場製品の販売が前期に比べ順調に推移、製造部門の生産効率の向上やコスト圧縮などによる利益の増加
- 昨年度は東日本大震災の発生に起因した公共事業費5%執行保留による影響があったが、当期においては事業執行が回復
- 港湾・漁港などの復旧・復興工事で使用される『控索』の売上高が堅調に推移
- 工事現場での職人不足問題等から『KIT受圧板』の引合が好調
- 橋梁に使用される『斜材ケーブル』、主として補修・補強工事に使用される『外ケーブル』などの売上高が増加

### 環境防災分野

アンカー 落橋防止装置  
KIT受圧板 控索 など



港湾に使用される控索



KIT受圧板とダブルアンカー

### 橋梁構造分野

斜材 PC用ケーブル  
外ケーブル など



斜張橋(斜材ケーブル)  
秋田県由利本荘市  
新「由利橋」



「外ケーブル」による橋梁の補強  
京都府船井郡「広野大橋」

# エスイー A & K 株式会社

(建築用資材の製造・販売事業)

 エスイー A & K 株式会社

## エスイー A & K 株式会社

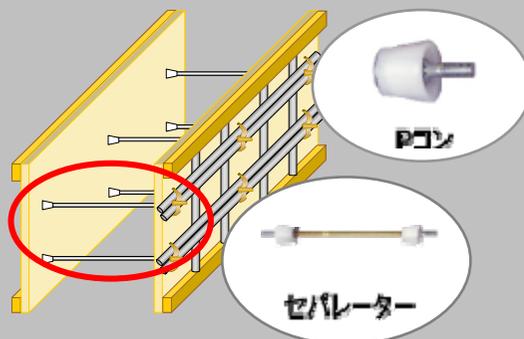
売上高 49億78百万円

経常利益 3億35百万円

- 増収増益を達成
- 東北を中心とした復旧・復興需要の取り込みが順調に推移
- 首都圏市場においては、職人不足等の問題もあったが、都心再開発の案件や旺盛なマンション需要の取り込みが堅調
- 子会社2社合併によるコスト低減効果

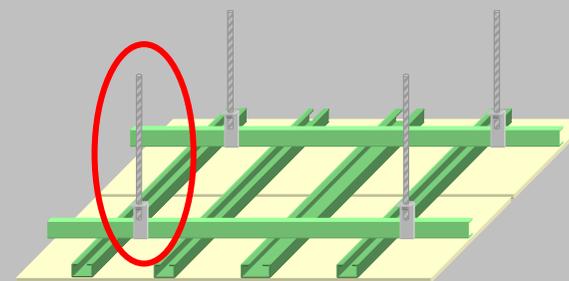
### 仮設建材事業 【関連指標】首都圏新設マンション着工数

仮設型枠工事(建物の土台部分)を施工する際に使用する製品の製造・販売



### 内装建材事業 【関連指標】非住居着工棟数(民間)

コンクリートのビル等に使用される、軽量の天井下地を吊り下げるための吊りボルト・セットボルトやその他建材の製造・販売



両関連指標とも回復傾向 + 復旧・復興需要

民需の取り込み

# 株式会社アンジェロセック (建設コンサルタント事業)



## 株式会社アンジェロセック

売上高 10億1百万円 経常利益 25百万円

- 環境省「H24年度新メカニズムの構築に向けたアフリカ地域におけるMRV体制構築支援事業」の継続的受注消化  
(MRV: Measurement, Reporting and Verification: 測定・報告・検証の略)
- アフリカ圏「コンゴ国キンシャサ市ポワ・ルー通り補修及び改修計画DD/SV」の継続受注 など

### 事業分野・顧客・案件実施国の新規開拓、多様化にさらに注力

#### Project 環境省案件

日本政府提案のアフリカにおける  
「温暖化効果ガス削減のための新メカニズム」MRV体制構築支援事業  
昨年に引き続きワークショップ等に参加し調査を実施

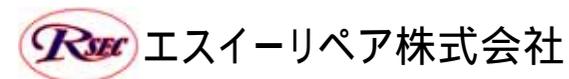


#### Project アフリカ圏における 道路交通網の整備案件

コンゴ国キンシャサ市ポワ・ルー通り  
補修及び改修計画DD/SV



# エスイーリペア株式会社 (補修・補強工事業)



## エスイーリペア株式会社

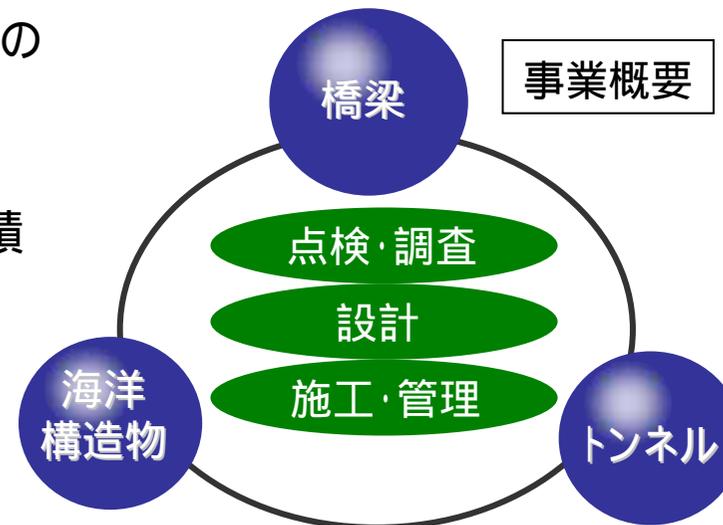
売上高 12億39百万円

経常利益 35百万円

- 第1四半期連結会計期間に(株)仲田建設を子会社化  
事業規模が拡大し、橋梁・トンネル等での補修・補強工事実績を蓄積
- 政府による緊急経済対策としての老朽化する社会インフラの維持・補修事業への取り組みを推進

橋梁・トンネル・海洋構造物等、コンクリート構造物の  
補修・補強専門の施工会社

九州地域を中心に、元請受注の実績も着実に蓄積



## コンクリート構造物の補修・補強

### エスイーリペア株式会社の設立 (技術・人材・実績の継承)

- ・補修・補強工事業への本格参入
  - ：子会社化した旧 仲田建設の実績と経歴、補修補強の施工に特化した技術力をいかして九州地域を中心にさらに実績を蓄積。
- ・事業分野
  - ：橋梁、トンネル、海洋構造物、一般構造物のほか、プラントの基礎分野など
- ・グループ企業内での連携提案
  - ：(株)エスイーの製品である「外ケーブル」などの供給がスムーズになったことで、より幅広い提案が可能

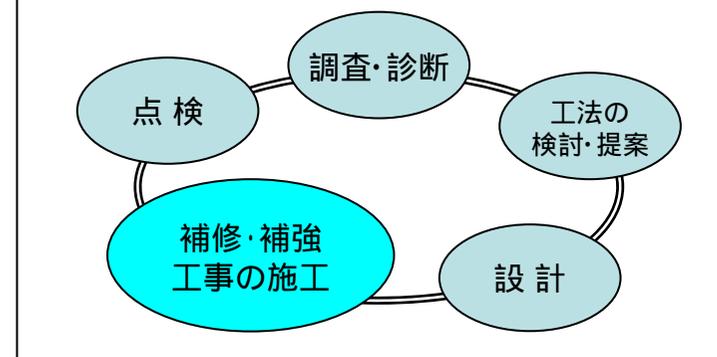
#### 老朽化に対する補修

橋梁、トンネルなど老朽化する社会インフラの増加への対応

#### 耐震補強

首都直下型地震や南海・東南海地震などを想定した基幹交通網の地震対策

#### 業務内容



## コンクリート構造物の補修・補強

老朽化した交通網の整備、基幹道路の耐震補強の需要増加



- ・橋梁やトンネルなどの補修・補強、維持管理
- ・首都高速の大規模改修 老朽化した交通網の整備
- ・首都直下型地震や南海・東南海地震等への防災対策  
耐震性に優れた整備の推進

東日本、中日本、西日本高速道路株の3社からなる  
「高速道路資産の長期保全及び更新のあり方に関する技術検討委員会」から  
平成25年4月25日付で「高速道路資産の長期保全及び更新のあり方中間とりまとめ」が発表

(永続的な高速道路機能の維持に向けて) 高速道路の老朽化対策について合同で検討

大規模更新・修繕  
予防保全  
機能強化

3社が管理する高速道路は、1960年代の高度経済成長期から建設が始まり、橋やトンネル、のり面などの老朽化が進んでいる。  
平成23年度末の供用延長は約8,700kmあり、そのうち約4割が建設後30年以上経過しているため、対策が必要な道路の優先順位をつけ更新計画を早急に検討する必要。

ESCON(超高引張強度コンクリート)の開発

補修・補強分野への応用



・ SECグループの今後の戦略



## 【平成26年3月期 建設業界をとりまく市場環境】

政権交代 公共事業投資への予算の重点化

- インフラ老朽化対策や事前防災対策等の緊急課題に対応するため、国民の命と暮らしを守る公共事業予算を充実。

**平成25年度予算は7,119億円(15.6%)増の5兆2,853億円**  
(24年度補正予算とあわせた「15ヶ月予算」では、77,279億円)

復興・復旧や防災対策に関する安心・安全への関心の高まり

- 社会インフラの老朽化問題(ex. 笹子トンネル事故、首都高速の更新など)
- 東日本大震災の復旧・復興

および首都直下型・南海トラフ巨大地震への対策

- 台風などによる土砂災害の発生

など

その他、恒常的な課題・・・

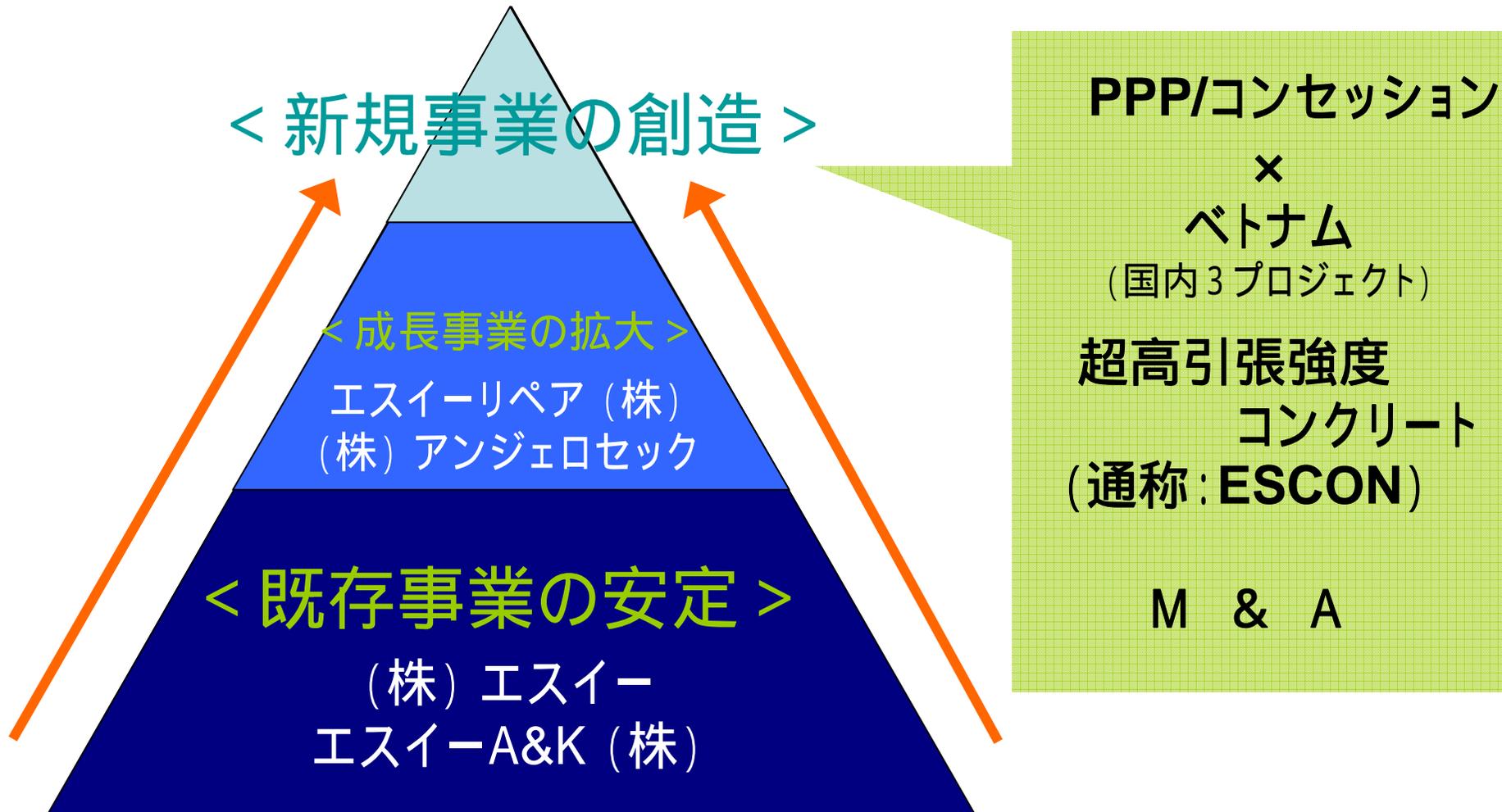
国内市場の縮小、過度な価格競争、財政圧迫による  
社会インフラの維持管理の不備 等

PPPコンセッションの活用

エスイーグループでは、  
「既存事業の安定」と「3つの成長戦略」を推進

# エスイーグループの成長戦略

SEC 株式会社 エスイー



成長戦略の核の1つであるPPP(官民パートナーシップ)戦略

1. (株)エスイーは社会インフラの新設や老朽化対策へのPPPコンセッションの活用に、我が国では最初に積極的に取り組んできた。
2. 目下、ベトナム「Bach Dang(バックダン)橋」建設にPPP(BOT)を提案し、7月には事業許可、投資家指名の仮調印の段階にある。
3. 国内では、国土強靱化を社会インフラ老朽化対策へのPPPコンセッション提案の他、数件のPPPプロジェクトに取り組んでいる。

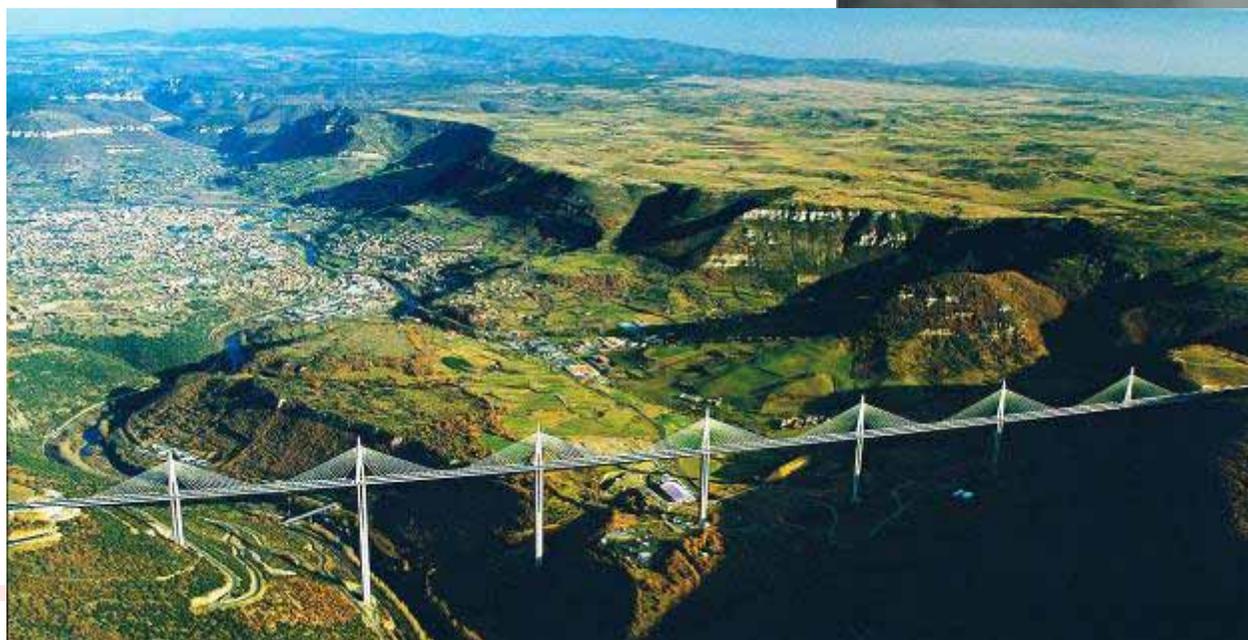
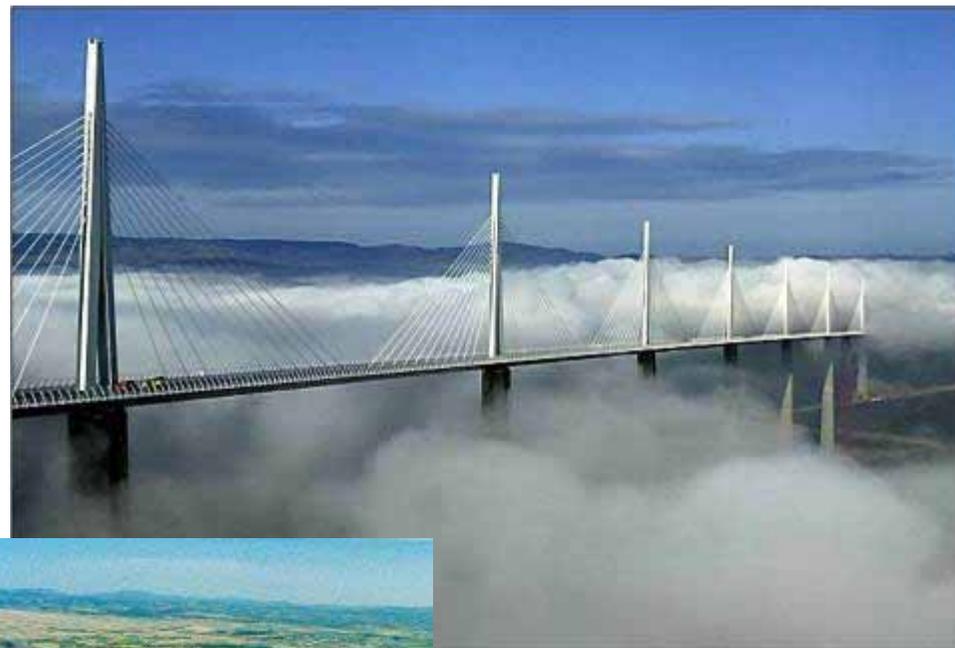
# PPPコンセッションによる フランスVINCI社とEffage社の例

## 1. リオン・アンティリオン橋(VINCI社)



# PPPコンセッションによる フランスVINCI社とEffage社の例

## 2. ミヨー高架橋 (Effage社)



## ベトナム PPP (BOT方式) による事業提案

ベトナム子会社であるVJECを中心に、エスイーおよびアンジェロセックで連携して事業提案を実施。

### 『バックダン橋』整備 (PPPプロジェクトの提案) およびダンニャマック地区開発

- ・ハロンとハイフォンを結ぶ高速道路25kmのうち、橋梁部分5kmの建設工事およびダンニャマック地区の土地開発案件。
- ・2012年7月 本件について、経済産業省より「平成24年度インフラ・システム輸出促進調査等事業(民活インフラ案件)形成等調査」が採択



<ベトナム・クアンニン省との実施協力のための覚書調印式の様子>

#### <上記以外に進行中のベトナム案件>

- 『ハノイ - ハイフォン間高速道路 施工管理業務』
  - 全長110kmの施工管理 (建設は中国、韓国企業)
- 『Nhat Le (ニャットレ) 2橋デザインチェック業務』
- 『Bai Chay (バイチャイ) 橋 法面対策調査設計業務』
  - JICAより受注
  - IDI (国際建設技術協会) との連携



<Nhat Le (ニャットレ) 2橋>

# 地理的な位置関係

## ベトナムにおけるプロジェクト現場



総事業費 300億円

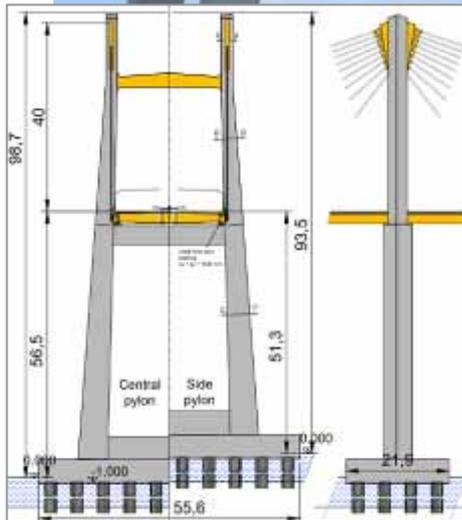
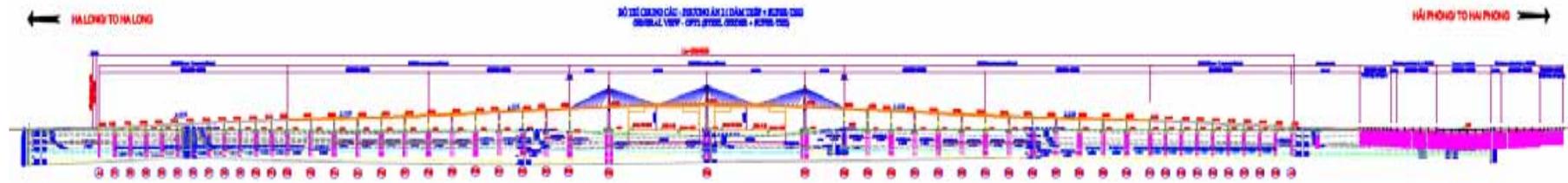
工事費 200億円

工期 2013年～2017年

ベトナム政府 クアンニン省

ベトナム北部 産業、経済開発の推進と日本他からの工場進出(世界遺産のハロン観光の推進)

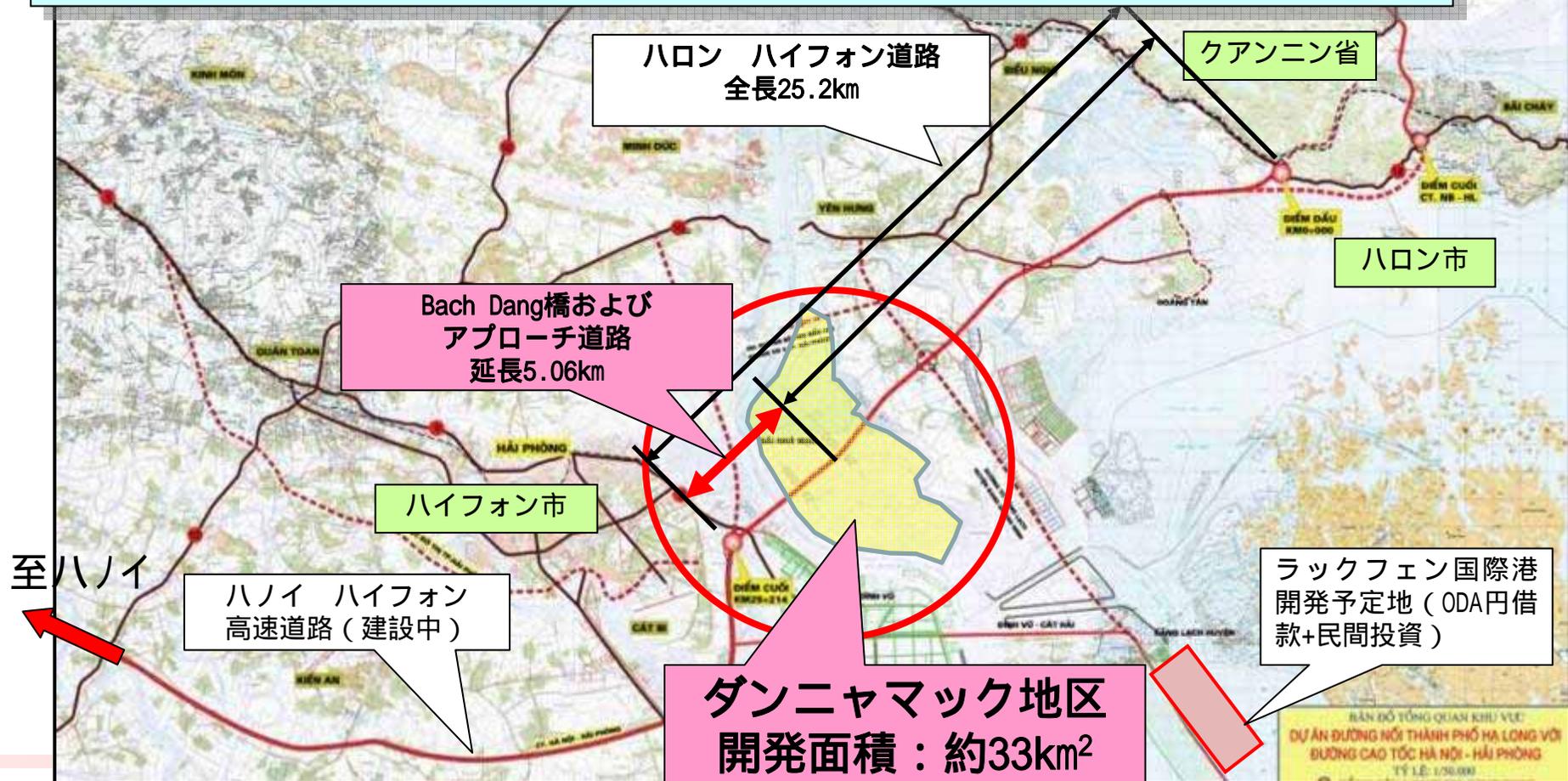
# Bach Dang橋およびアプローチ道路



# ダンニャマック地区開発の概要

クワンニン省からダンニャマック地区における土地開発マスタープラン作成及び開発事業F/S作成を認可されました。

- ・新プロジェクトスコープ
- ・BT方式 - エスイー主導によるダンニャマック地区の総合土地開発事業(約33km<sup>2</sup>)
  - スマートゲイトシティ(工業・商業団地、日越友好都市)の建設



# プロジェクトの現状

- ・本年2月14日に「経済産業省F/S」の最終報告書を経産省に提出しました。
- ・現在、ベトナムQuang Ninh省と、事業化に向けて交渉を進めています。

## QN省との交渉(5/20 時点)；

- ・QN省から「セキュリティーパッケージ」(収入保証、返済保証)を保証済み。
- ・QN省から投資家選定指名予定の保証済み。
- ・7月 「正式投資家選定」(予定)。
- ・7月 仮契約 調印予定。
- ・9月末頃、工事着工する予定。

## 「ESCON」(エスコン:超高引張強度コンクリート) 開発の背景

- わが国では、高度経済成長期に社会資本が集中的に整備され、それらは建設後30～50年が経過しており今後急速に老朽化が進行することが明確になっている。
- 例えば、建設後50年以上経過した道路橋は、平成22年度段階では全体の8%であるが、平成32年度には26%、平成42年度には53%になると予想されている。

(現在、道路橋は約70万橋あり、そのうち約68%が市町村管理で、  
人手不足・資金不足が課題)

# ESCON(超高引張強度コンクリート)の研究開発



大型車交通量の増大により、道路橋の床版は疲労によるひび割れが進行し、路面が陥没する事例が増加している。

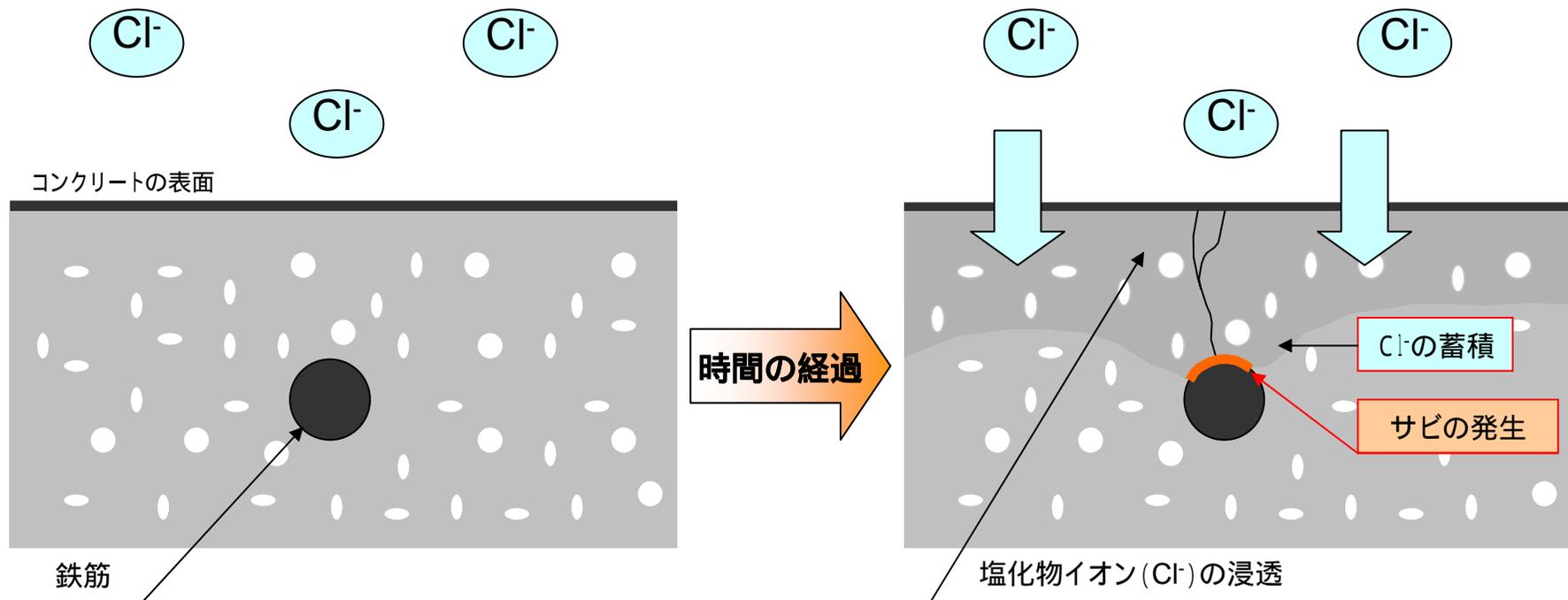


# ESCON(超高引張強度コンクリート)の研究開発

海岸に近い位置にあるコンクリート橋は、海から飛来する塩分の影響を受け、寒冷地では凍結防止として散布される塩化カルシウムにより、コンクリートの中の鋼材が腐食し劣化が進行する。



コンクリート中に塩分が浸透していくと内部の鋼材が腐食し、膨張するため、コンクリートが劣化



完成直後

飛来塩分( $\text{Cl}^-$ )による劣化メカニズム

# ESCON(超高引張強度コンクリート)の研究開発



近い将来発生すると考えられている東海地震、南海・東南海および首都直下地震等の大規模地震に対する構造物の耐震化は急がれている。



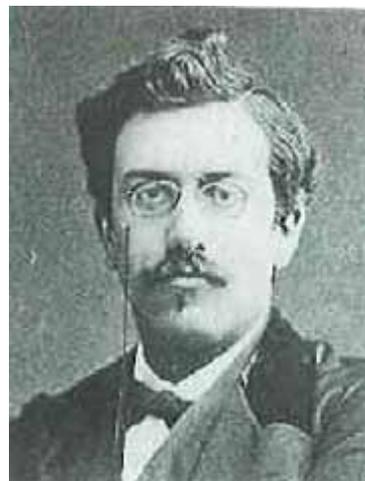
# ESCON(超高引張強度コンクリート)の研究開発

鉄筋コンクリートはフランスのFrançois Hennebique(1842 ~ 1921年)によって20世紀初頭に開発され、これをフランスの建設大学(現L ecole National des Ponts et Chaussees: 国立建設大学院大学)の助教授であったCharles Rabut(1852 ~ 1925年)が理論づけたものである。

鉄筋コンクリートは発明、開発以来110年強の間世界で多量に使用され、構造物の主体として建設での応用分野を拡張して来た。経済的にも最も優れた構造材である。しかしながら、鉄筋が腐食するとひび割れが進行し、耐久性が低下する欠点がある。



François Hennebique  
(1842 ~ 1921年)



Charles Rabut  
(1852 ~ 1925年)

## ESCONを開発した意義

- コンクリート系構造物の更なる長寿命化: 耐久性の更なる向上  
(腐食しない材料の採用)
- コンクリート系構造物の維持管理費、更新費の削減  
: 高耐久性の確保
- 少子高齢化社会における建設工事の効率化、省力化  
: プレハブ化、建設資材の軽量化
- 大規模地震に対する耐震対策費用の低減: 構造物の軽量化
- 美観に優れたコンクリート系構造物の創出: スレンダーな構造部材

## ESCONの特長

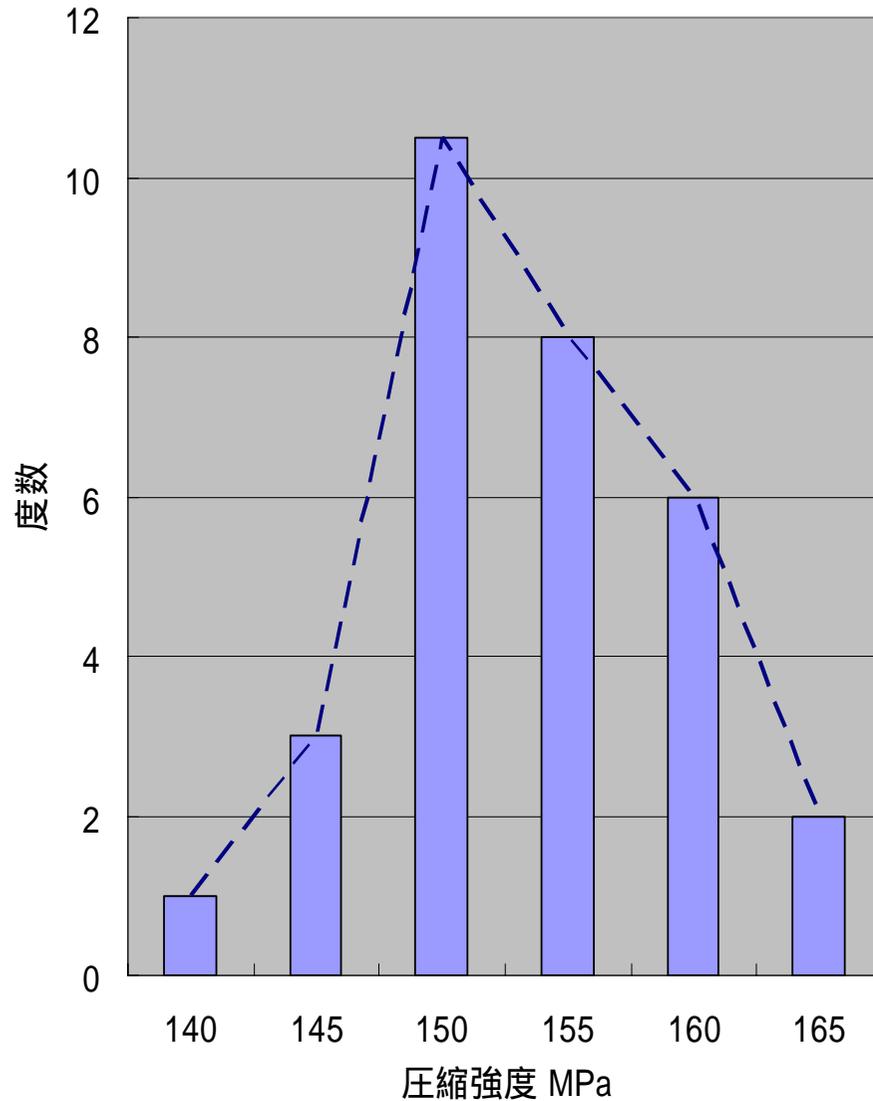
### 1. 超高引張強度コンクリート

:  $f_t = 20\sim 50\text{Mpa}$  (圧縮強度  $f_c = 150\sim 200\text{Mpa}$ )

2. 曲げ引張強度は20Mpa以上であり、曲げ部材に鉄筋などの鋼材は一切使用しないので腐食劣化は皆無である。
3. 特殊な装置でオートメーション・システムによって生産されるCF Rebar(炭素繊維筋)を引張補強材として使用すること(特許出願中)により、炭素繊維筋コンクリートとして飛躍的に曲げ耐力が向上する。
4. 圧縮強度が150Mpa以上あり、圧縮部材の断面が大幅に小さくできる。
5. 構造部材の大幅な軽量化が実現できる。

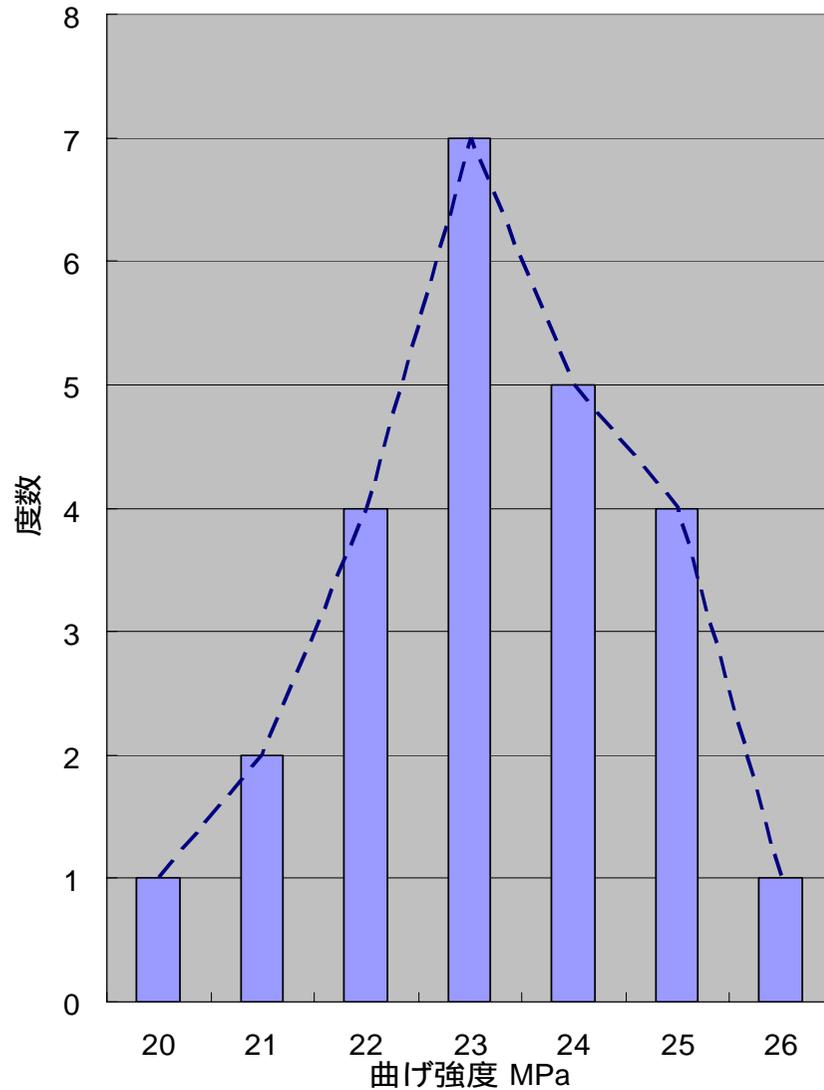
## ESCONの特長

6. 従来の超高強度コンクリートに使われている鋼繊維は使用しないため、耐久性、施工性が大幅に改善され、プレキャスト部材のほか現場施工も可能である。
7. 鋼材を一切使用しないため、100年を大きく超える長寿命化が達成できる。
8. 流動性が高く、高い自己充填性をもっている。(Viscosityが高い)
9. 高い靱性をもっている。
10. 耐磨耗性に優れる。
11. ひび割れが生じにくく、かつ分散性に優れる。
12. 耐水性、耐通気性に優れる。  
(浸透率がほとんど0に近く普通コンクリートの1/100以上小さい)



## ESCON の圧縮強度試験結果

圧縮強度分布  
(蒸気養生後20 水中養生)  
供試体サイズ 50×100 宇  
部工場にて作成  
平均圧縮強度 153.8MPa  
=4.4 N=24



ESCON の曲げ強度試験結果

曲げ強度分布  
(蒸気養生後20 水中養生)  
供試体サイズ40×40×160 宇  
部工場にて作成  
平均曲げ強度 22.6MPa  
=1.8 N=24

## ESCON- の曲げ試験供試体(側面) (供試体寸法40×40×160mm)



# ESCON(超高引張強度コンクリート)の研究開発

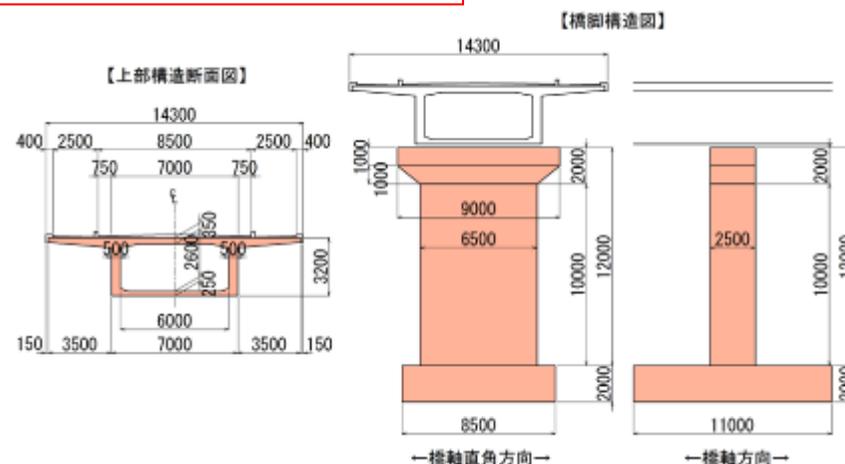
SEC 株式会社 エスイー

ESCON Rebar(炭素繊維筋)

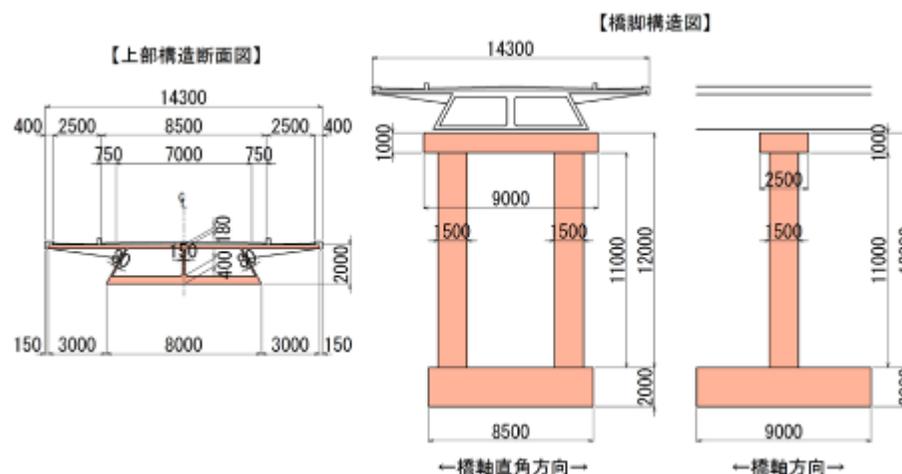


## ESCONを用いた道路橋の試設計の結果

【従来の橋梁：PC箱桁】



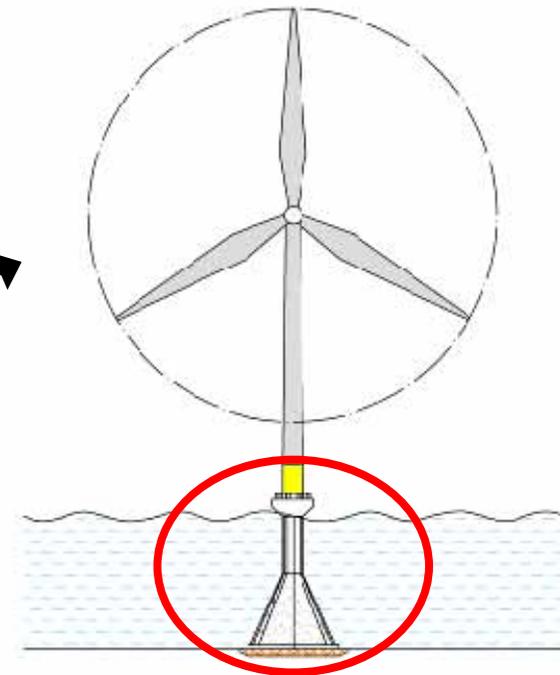
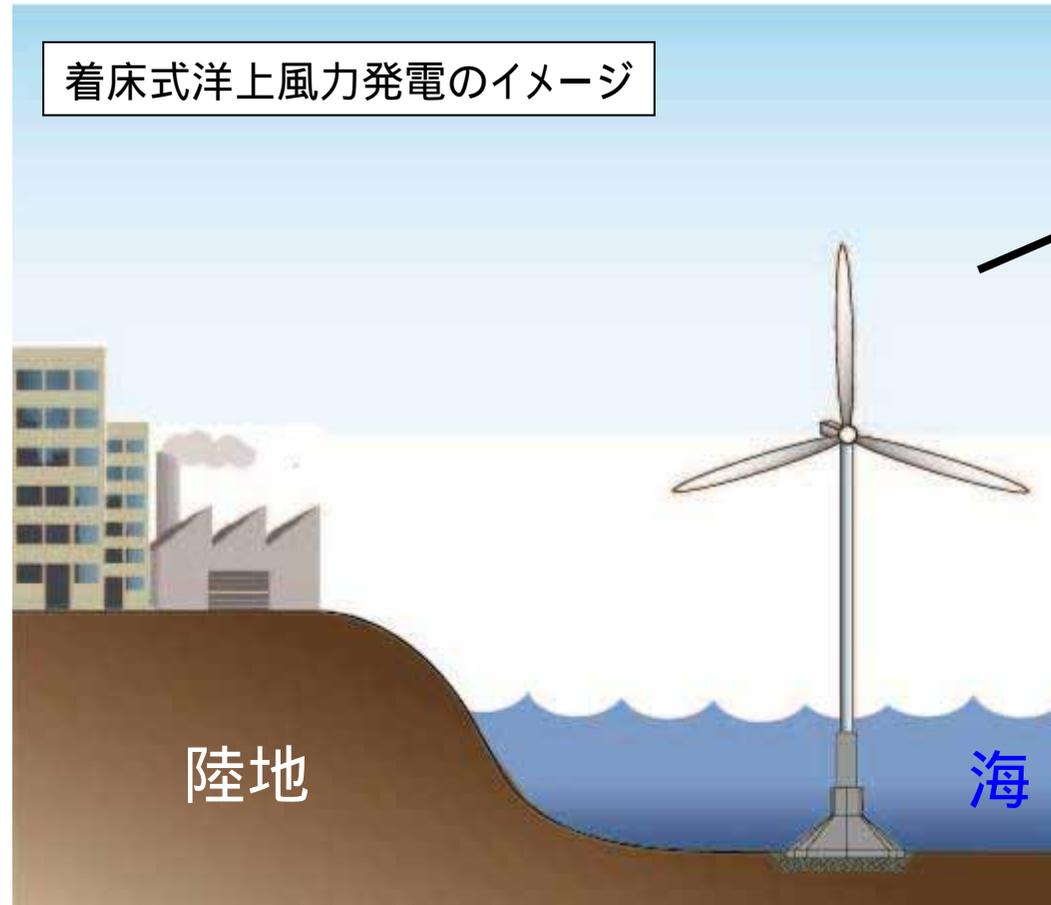
【ESCON仕様橋梁】



上・下部工の総重量が約40%低減でき、  
上・下部工の工事費は約20%低減できる。

## 洋上風力発電施設への活用

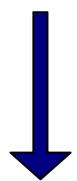
着床式洋上風力発電のイメージ



ESCONは耐久性に非常に優れ、極めて高い水密性、耐摩耗性をもち、塩分浸透に対して高い抵抗性があることから、海上に設置される風力発電施設の基礎に活用できる。

## ESCONの開発状況

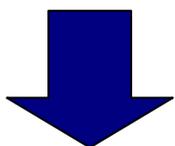
STEP コンクリートの超高強度化(特許出願済み)



- ・基礎となるコンクリートの強度および耐久性等の基本性能を確認
- 製造方法の確立
- テストプラントの開発

STEP 炭素繊維とセメントペーストとの親和性の改善

- ・炭素繊維との親和性について、基礎実験が終了
- 現在、製品化に向けて開発中



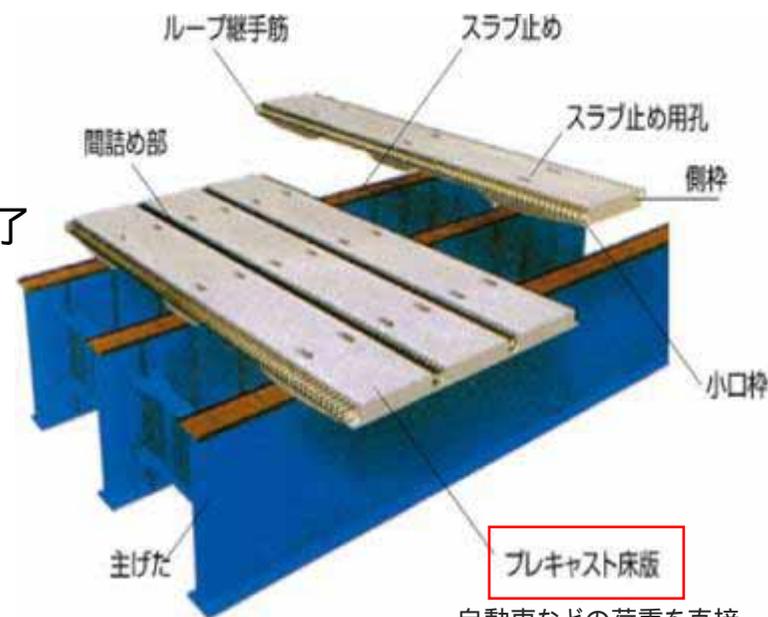
超高引張強度コンクリートの活用

## プレキャスト床版への活用

:厚さが薄く軽量(0.60/普通コンクリート)、腐食劣化無

【プレキャスト床版とは・・・】

あらかじめ工場等で製造されたPCコンクリートの床版のことで、道路を通行する車や人の荷重を直接支える部分。道路が変形などを起こさないように主げたなどに荷重を伝達する役割を果たします。



自動車などの荷重を直接受ける消耗の激しい部材

図: 社団法人プレストレスト・コンクリート建設業協会ウェブサイトより

道路橋用プレキャスト床版への製品化を目指す

# 戦略的 M & A の推進

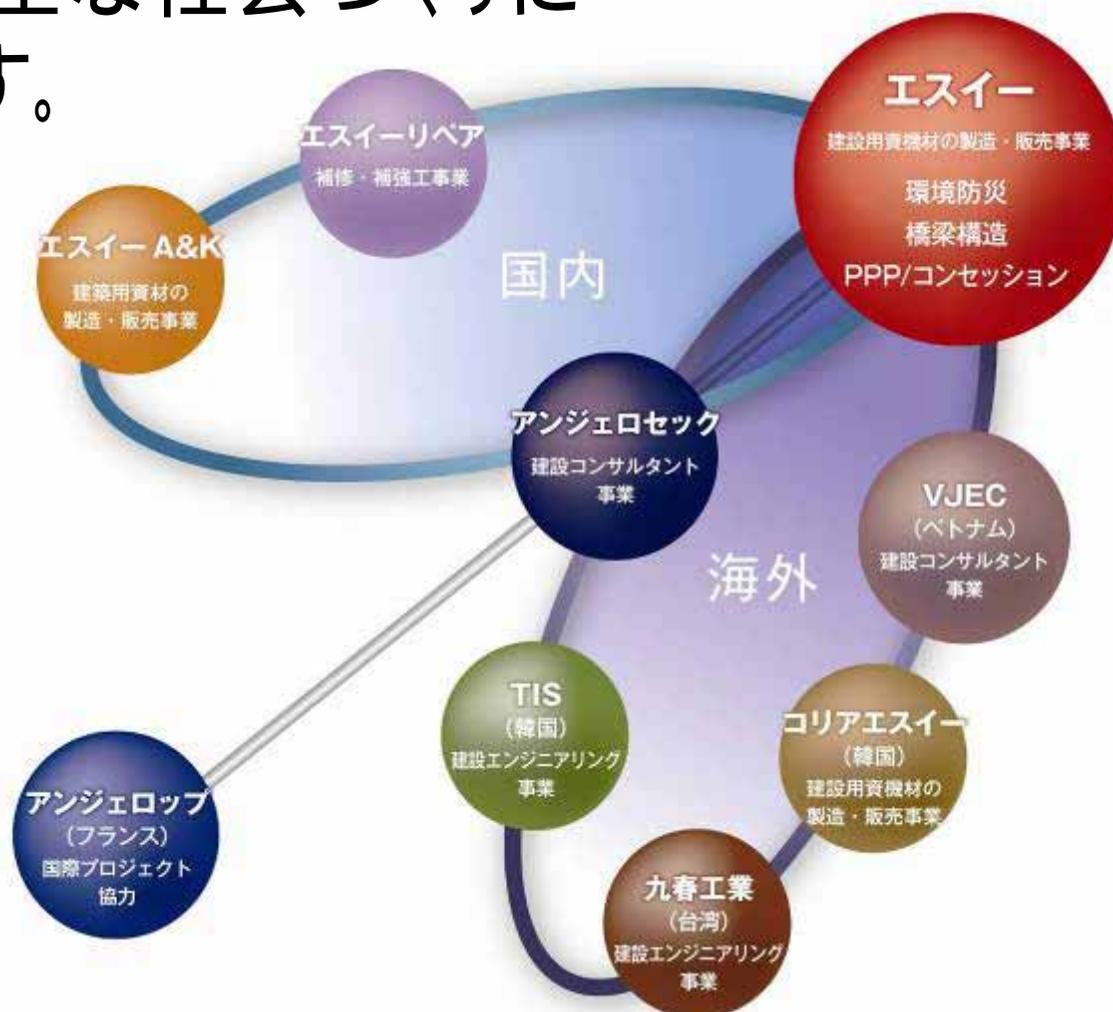
## エスイーグループにおける M & A 実績

- ・平成21年4月 朝日興業株式会社(現・エスイーA&K株式会社)の  
株式取得(子会社化)
- ・平成22年1月 株式会社キョウエイ(現・エスイーA&K株式会社)の  
株式取得(子会社化)
- ・平成24年5月 株式会社仲田建設(現・エスイーリペア株式会社)の  
株式取得(子会社化)

- ・ 建設と交通インフラ分野を中心に、他領域の事業へも市場拡大  
(フランスSystraとの資本提携交渉中、東南アジア市場開発)
- ・ より一層の建設分野での他分野を含めた経営基盤の強化
- ・ 技術経営とイノベーション: 技術・人材・M&A      スピード重視の成長戦略

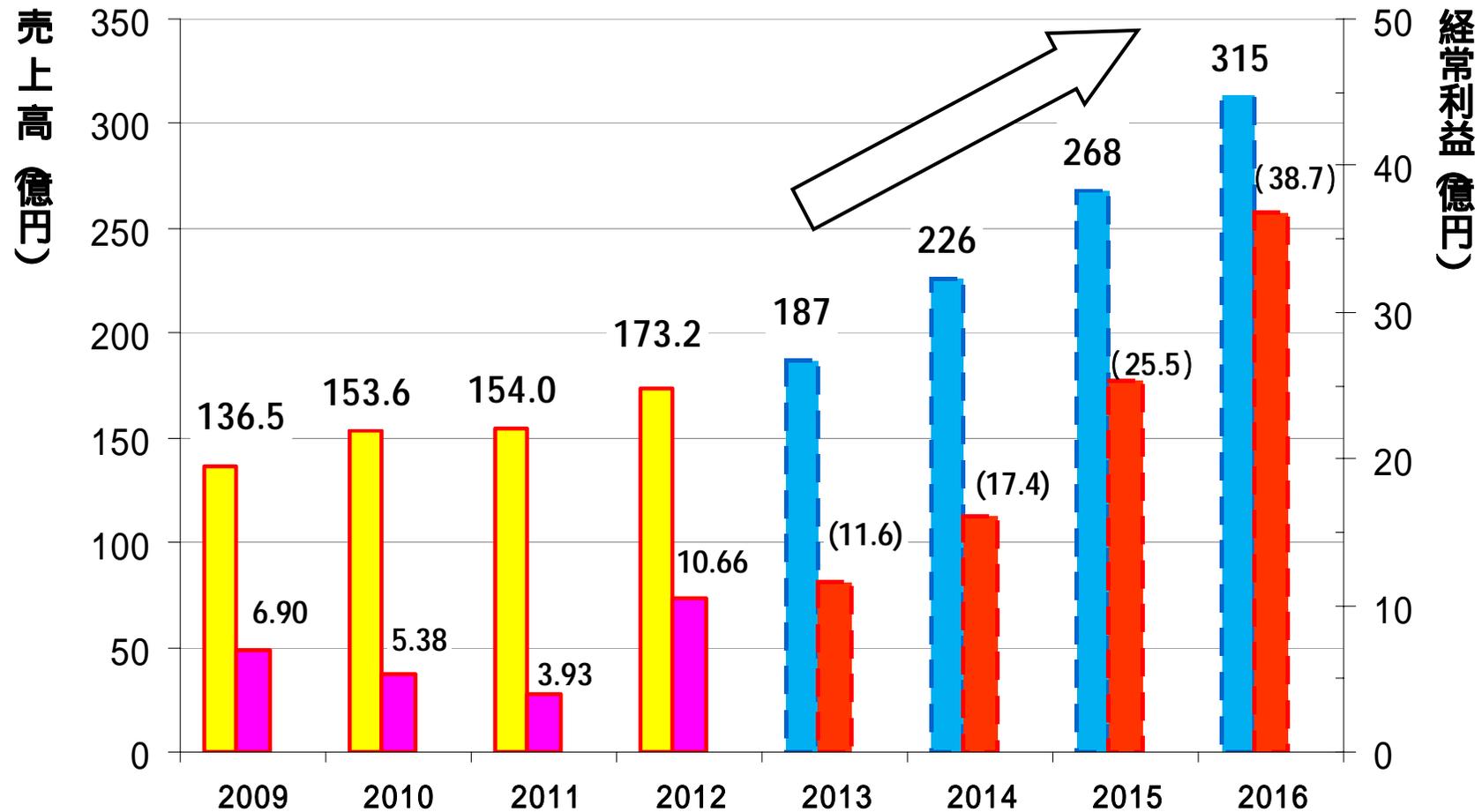
# エスイーグループ関連会社の構成

安心で安全な社会づくりに  
貢献します。



# SECグループ売上 / 利益計画

## 中期300億円化戦略 (PPP、ESCON、M&A)



# ご清聴ありがとうございました



---

## 将来見通しに関する記述についての詳細〔ご参考〕

当資料は、あくまで株式会社エスイーをより深く理解していただくためのものであり、当資料に記載されたいかなる情報も、当社株式の購入や売却を勧誘するものではなく、またこれらに関する投資アドバイス目的で作成されたものでもありません。

本資料に記載されている当社の業績見通し、計画、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。これらは現時点で入手可能な情報に基づき株式会社エスイーの経営者が判断したものであり、リスクや不確実性を含んでいます。したがって、これらの業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。

---

Globality Engineering Maker

 株式会社 エスイー